



(表)

(裏)

ミラノ公国 1 デュカット金貨 (直径23mm)

フランチェスコ・スフォルツァ発行 (在位1450~1466)

東海銀行貨幣資料館所蔵

イタリア・ルネッサンス期を代表するミラノ公国の領主、フランチェスコ・スフォルツァが発行した自己の肖像入りの金貨。

フランチェスコはミラノ領主ヴィスコンティ家の傭兵隊長だったが、主家を乗っとりミラノ領主として実権を掌握した。そして、自己の権力を誇示するためにもパトロンとして多くの芸術家や文化人を保護しルネッサンスを開花させた。

従来の中世ヨーロッパのコインは、形式的な人物像やゴチック様式の紋様など堅いデザインであったが、このフランチェスコの金貨の肖像は、ルネッサンスの自由・闊達な表現方法を初めて取り入れ、写実的で「真に迫った肖像」となり、後世の貨幣のデザインの基本となった。裏には、為政者の権力を象徴する騎馬像が描かれている。

ルネッサンスの芸術性が貨幣に表現された典型的な例である。

\* 「ルネッサンスと桃山時代の貨幣展」(会期 6月5日~11月30日)で展示中  
(東海銀行貨幣資料館 主任 工藤 洋久)

## 目 次

- 平成元年度愛知県博物館協会総会報告..... 2
- 平成元年度東海地区博物館連絡協議会総会について..... 4
- 新規加盟館紹介..... 5

## 平成元年度

# 愛知県博物館協会総会報告

平成元年度愛知県博物館協会総会が、5月19日(金)名古屋市千種区覚王山通り8-19の「王山会館」で開催され、参加館51館、74人の出席がありました。以下、総会の概要を御報告します。

1. 会長挨拶……山田五夫氏(愛知県陶磁資料館館長)
2. 来賓挨拶……高橋家利氏(愛知県教育委員会文化財課課長補佐)
3. 表彰……前名古屋市科学館 西森鍵資郎氏  
博物館明治村 宮崎正巳氏  
以上功労賞

### 4. 新規加盟館紹介

#### (1)昭和63年度総会以降加盟館

豊橋市自然史博物館  
楽只美術館  
岡崎市郷土館  
犬山市文化資料館

#### (2)平成元年度加盟館

トヨタ博物館  
一色学びの館  
古川美術館  
知立市歴史民俗資料館  
衣の民谷館  
森村記念館



### 5. 議題(座長 愛知県陶磁資料館館長山田五夫氏)

#### (1)昭和63年度事業報告

#### (イ)研修会の実施

##### (A)博物館等職員研修会(共催愛知県教育委員会)

日時 昭和63年9月8日～9日

場所 尾西勤労青少年福祉センター

内容 第1日テーマ博物館における展示効果  
第2日現地研修尾西市歴史民俗資料館  
一宮市博物館

##### (B)歴史民俗部会研修会

日時 平成元年3月23日

場所 名古屋市博物館

内容 「甲冑の取り扱い」

##### (C)美術館部会研修会

日時 平成元年2月17日

場所 昭和美術館

内容 「日本画の画材」

#### (ロ)昭和63年度東海地区博物館連絡協議会総会参加

日時 昭和63年6月18日～19日

場所 名古屋市公立学校共済組合「王山会館」

#### (ハ)第13回東海三県博物館協会交流研修会

日時 昭和63年10月18日～19日

場所 岐阜県海津町文化会館

内容 第1日研究協議会 各館の現状と課題

第2日現地研修 福原輪中、船頭公園、  
治水神社、中央水郷地区センター、高須輪中、  
排水機場

#### (イ)表彰の実施 (表彰者氏名略)

功労賞2名、奨励賞1名、感謝状2名

#### (ホ)印刷物の作成配布

(A)「おでかけガイドー愛知の博物館」2回発行

(B)「東西南北」No.172～175の発行

(C)協会報「愛知の博物館」No.45～47の発行

#### (カ)会議

(A)総会1回

(B)理事会2回

(C)実行委員会11回

#### (ク)昭和63年度新規加盟の報告

10館(館名略)

#### (ケ)昭和63年度収支報告(監査報告昭和美術館)

#### (メ)平成元年度事業計画

##### (イ)事業

###### (A)部門別研修会

美術部門

歴史民俗部門

自然科学部門(新設)

###### (B)県内研修会

愛知県教育委員会と共に博物館関係施設に

勤務する職員を対象とする。

期日 9月7日(木)~8日(金)

会場 豊橋市内

(C)平成元年度東海地区博物館連絡協議会総会

期日 6月13日(火)~14日(水)

会場 山梨県富士吉田市(市民会館)

(D)第14回三県博物館協会交流研究会

期日 11月下旬(未定)

会場 三重県(伊勢市又は鳥羽市)

(E)表彰

協力加盟館(園)に勤務し、特にその発展に寄与した者を表彰する。

(F)印刷物の発行・配布

協会報「愛知の博物館」、「東西南北」、「おでかけガイド」、「加盟館(園)職員録」、「ガイドブックー愛知の博物館」、「ガイドマップ」

(G)全国博物館大会を日本博物館協会と共に開催を行う。

期日 11月9日(木)~10日(金)

会場 名古屋市内

(H)会議

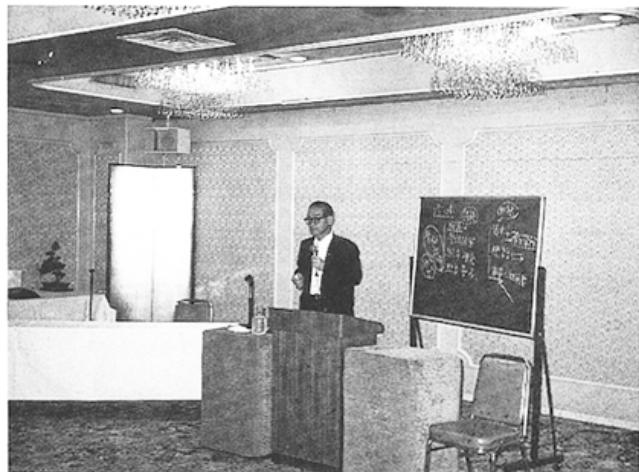
(A)総会 1回

(B)理事会 2回

(C)実行委員会12回

#### ＜平成元年度愛知県博物館協会役員名簿＞

役職名	館(園)名	代表者名	備考
理事	愛知県陶磁資料館	館長山田五夫氏	会長
"	熱田神宮宝物館	館長山本文彦氏	副会長
"	三河武士のやかた家康館	館長小嶋照男氏	
"	名古屋市科学館	館長岡田博氏	
"	名古屋市博物館	館長浅井豈一氏	
"	徳川美術館	館長徳川義宣氏	
"	日本モンキーセンター	所長河合雅雄氏	
"	博物館明治村	館長関野克氏	
"	武豊町歴史民俗資料館	館長磯部幸男氏	
"	豊橋市美術博物館	館長河合正樹氏	
"	一宮市博物館	館長岩野見司氏	
"	でんきの科学館	館長帆高寿壯氏	
監事	愛知県文化会館美術館	館長加藤通孝氏	
"	昭和美術館	館長柳沢幸輝氏	



#### (4)平成元年度収支予算(略)

以上、報告説明後いずれも承認される。

総会終了後、元法政大学文学部(博物館学)教授鶴田総一郎氏を講師に「博物館のネットワークのありかた」と題して講演会が開催されました。

氏は、博物館に於いての連絡とは協力とは何かを、そしてどのようにすべきか、またありえるかについて論理的かつ具体性をもって説明された。連絡や協力のパターンとしては博物館と博物館、博物館と社会文化関係、博物館と学校等色々に想定されるが、ここでは博物館同志の連絡と協力を中心に述べられ、今、我が国博物館は個として存在する面が強いが、博物館を一つのまとまり「群」としての群博物館学を考えることが基本となるべきであろう。その為に当然ネットワークの必要性があり、博物館のもつ収集や整理保管等の機能と資料の種類(人文系・自然系)、施設等の形態を熟知し、さらに国立、公立、私立等博物館の種類とも相互に関連しながら、その中で連絡と協力を行動しなければならないし機能分担も明確にする必要がある。この他に博物館の職員の種別によるネットワークや研究課題別のグループなどが想定される。このような様々なネットワークの根本には総合的な、学際的な認識をもって行なわれることが肝要であるなど、約1時間半に亘って講演されました。

午後5時より、懇親会に移り各館の情報交換及び歓談がなされ、午後6時半閉会となりました。

(文責 実行委員野村辰美記)



## 平成元年度

### 東海地区博物館連絡協議会総会について

「富士には月見草がよく似合う」とは、さる有名作家の言葉です。そこで、一言、「山梨県には、富士山という、日本一の自然の博物館がある」。

さて、平成元年6月13日(火)から14日(水)に山梨県で開催されましたので、その概要を報告致します。第1日目の総会では、まず、会長の西川山梨県立美術館長のあいさつの後、来賓の日本博物館協会の毛利専務理事、山梨県教育委員会の石原教育委員、富士吉田市の渡辺市長(代理)から、あいさつがありました。引き続く、表彰では、神奈川県の強羅公園箱根自然博物館の田代道彌館長に表彰状と記念品が渡されました(代理受領)。

この後、議事に入り、(1)昭和63年度事業・決算・監査報告、(2)役員(監事)の選任、(3)平成元年度事業・予算(案)、(4)平成2年度開催県につき事務局等から説明され、審議の後、全て承認されました。なお、平成2年度の開催県は、神奈川県となりました。

総会終了後、討論会に移り、前半は、翌日の見学先の一つの釧路堂遺跡博物館の案内をかねて、山梨県考古博物館の田代道芸課長から「釧路堂遺跡にみる文化財の保護について」と題してお話をいただきました。実際の発掘に携わられた、体験談を交えて、縄文中期の釧路堂遺跡の概略、さらに、山梨県における文化財の発掘の現状と課題についても言及されました。

後半は、「各県の博物館協会の現況と課題について」をテーマとして、山梨県立美術館の竹田芸術文化普及監の司会のもとに、神奈川県博物館協会事務局長の高橋秀男氏と岐阜県博物館協会機関誌委員長の川瀬善忠氏からそれぞれの県の現況と課題が報告され、それを受け、総会参加者を含めて質疑応答と討論が行われました。

その後、会場を、宿泊場所でもある、国民宿舎富士河口湖ロッジに移して、懇親会が行われ、地元の名産品の「甲州ワイン」をいただきながら、各県からの参加者は熱っぽく、情報交換を行いました。

第2日目は、見学ということで、まず、富士スバルラインを通り富士山五合目まで行きました。下界は、ちょっと早い、いわば、梅雨の中休みで、まあまあの天気でしたが、道中の山は、ガスに包まれて、視界が悪く景色を楽しむことはできませんでした。バスのガイドさんの「とっても、素晴らしい景色です」という言葉を頼りに、写真や絵葉書や五千円札の素晴らしい富士の姿を思い浮かべながら……。しかし、五合目の

展望台を出発間際、ほんの数分、ほとんど残雪で覆われた頂上まで見られたのはラッキーでした。

次に、中央自動車道の釧路堂パーキングエリアの南側に接する場所に、昭和63年11月3日、勝沼町と一宮町の組合立の博物館として開館したばかりの釧路堂遺跡博物館を見学しました。ここには、日本有数の縄文遺跡から発掘され、1,116個体の縄文時代の土偶を中心にして、展示・収蔵がなされています。数千年も前から、男性?は、女性を芸術作品化してきたのでしょうか。

博物館の近くで、山梨名産の「ほうとう」鍋で昼食を済まし、次の見学先、本年7月、総合的に供用開始がなされる「甲斐風土記の丘・曾根丘陵公園」の、できあがったばかりの研修棟を見学後、同じ風土記の丘の中心施設となっている、最後の見学先、県立考古博物館に向かいます。この博物館は埋蔵文化財センターを併設されています。帰りの時間を気にしながら、足早に見学して、解散地のJR甲府駅に向かいました。

最後に、盛り沢山な内容で今回の総会等を、すすめていただいた、山梨県博物館協会並びに山梨県立美術館の関係者の皆さんに、紙面から、感謝の意を表したいと思います。

なお、別記として、本年度の東海地区博物館連絡協議会の役員名簿を掲げさせていただきました。

(文責 愛知県博物館協会事務局 原 誠)

#### 平成元年度東海地区博物館連絡協議会役員

理事	神奈川県博物館協会	神奈川県立博物館 横浜市立野山動物園 川崎市立日本民家園	岩野好秀氏 宮崎眞吉氏 大石照蔵氏
	岐阜県博物館協会	岐阜県博物館 内藤記念くすり博物館 飛驒民俗村	伊藤秀幸氏 青木允夫氏 古川昭夫氏
	静岡県博物館協会	久能山東照宮博物館 東海大学海洋学博物館 浜松市美術館	松浦國男氏 井上元男氏 小楠準一氏
	愛知県博物館協会	徳川美術館 名古屋市科学館 愛知県陶磁資料館	徳川義宣氏 岡田博氏 山田五夫氏
	山梨県博物館協会	山梨県立美術館 信玄公宝物館 富士博物館	西川新次氏 野沢公次郎氏 井出常済氏
監事	神奈川県博物館協会	三溪園	横溝壽男氏
	山梨県博物館協会	富士吉田市郷土館	梶原力氏

## 新規加盟館紹介

昭和63年度に当協会へ加盟されました10館の内、5館の概要をここに紹介します。

### 博物館 ミツカン「酢の里」 MITSUKAN MUSEUM OF VINEGAR

所在地 〒475 半田市中村町2-6

電話 (0569) 23-4620

交通 J R半田駅より徒歩3分、名鉄知多半田駅より徒歩8分

沿革 博物館ミツカン「酢の里」は185年前の文化元年(1804年)に、初代中野又左衛門により創案された三年間酒粕を熟成して原料として醸造された三ツ判山吹の当時の道具約300点を製造工程に従って展示している。昭和61年11月9日に開館し、当時の皇太子殿下並びに同妃殿下の行啓を仰ぐ栄に浴した。開館2年半で20万人の見学者を迎えて、全国各地の人々に親しまれている。



施設 敷地 約1万坪の工場内に  
P Rルーム(鉄骨)を中心に売店等を含み約  
300m<sup>2</sup>、展示場(木造2階建)約600m<sup>2</sup>合計900  
m<sup>2</sup>

入館料 無料

開館 9:00-16:00 (12:00-13:00休館)

休館日 毎月第3日曜日

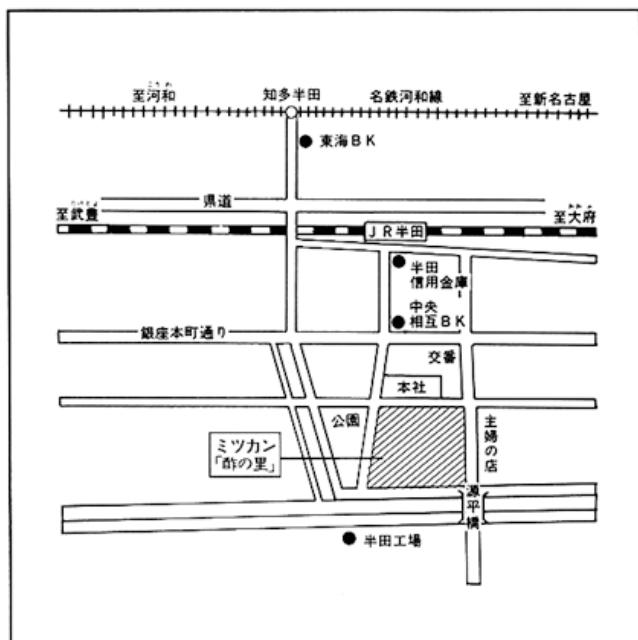
八月旧盆、年末年始

予約制のため電話か手紙であらかじめ予約が必要

特色 ○ P Rルームでマルチスライドにより酢の歴史、会社の概要、食酢の製造工程、種々の製品案内等があり、食酢の知識、酢に関する総合的なオリエンテーションが受けられる。

○江戸時代の建物の中が展示場であり、前後は、現代の酢作りの一部が同時に見学出来る。

○案内は、女性コンパニオンが説明し、来館者には記念品として自社製品を贈っている。



### 半田空の科学館

所在地 〒475 半田市南二ツ坂町80-32

電話 (0569) 23-7175

交通 名鉄知多半田駅下車、徒歩15分

沿革 半田空の科学館は「将来を担う青少年の科学する目と心を養い、夢と創造力を育む」ことを目的に、半田地域文化広場の一施設として昭和60年11月に開館しました。以来、多くの催し物を通して自然科学に接する場を提供しています。日頃は常設展示・プラネタリウム・天体観測等により、老若男女を問わず、広く地域の人々に親しまれています。

施設 敷地(半田市体育館を含む) 6,216.54m<sup>2</sup>鉄筋コンクリート造一部鉄骨造  
地下1階、地上2階、塔屋1階建

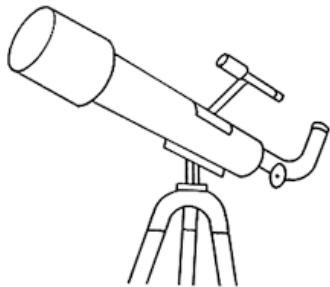
延床面積	2,284.49m <sup>2</sup>
展示室（特別展示室を含む）	507.58m <sup>2</sup>
プラネタリウムホール	244.46m <sup>2</sup>
天体観測所	47.85m <sup>2</sup>
開館	9:00~17:00
休館日	月曜日（祝日の場合は開館）
	年末年始（12月28日~1月5日）
入館料	無料（プラネタリウムは大人200円・小人100円、30名以上の団体は半額）



特色

- 展示はパソコンやシミュレーションにより楽しみながら地球・宇宙が学べるものです。
- プラネタリウムの一般番組は季節ごとにかわり、学習用（小5・中1用）・幼児用と合わせ常時4番組の投影が可能です。ホールは多目的に利用できる構造となっており、

音楽会、映画会、講演会等も開催します。  
○毎月天体観測所で30cm反射を含む5台の望遠鏡を使って星を見る会を開催します。  
○天文、自然に関する特別展示や、望遠鏡取扱教室・天文工作教室等の各種学習教室などさまざまな行事を実施します。



## 國盛 酒の文化館

所在地

〒475 半田市東本町2-24  
電話 (0569)-23-1499

交通

J R武豊線半田駅より徒歩約5分  
名鉄河和線知多半田駅より徒歩約10分

沿革

三百余年の歴史を誇る銘醸地、尾州半田。入江沿いに大きな蔵が立ち並んでいた江戸時代の面影が次第に消えてゆき、また先人達の残した酒造りの道具類も機械化されてゆく今日、酒造りの文化遺産を保存し明日に伝えてゆくために、昭和59年秋新醸造工場の完成稼動を機に、昭和60年1月オープンしました。

施設

建物、7間×15間、5間×15間の昔の酒蔵2棟の2階に、218.7m<sup>2</sup>の展示室と、71.6m<sup>2</sup>・97.2m<sup>2</sup>の映像ルーム兼試飲コーナーが2室、その他即売コーナー等。

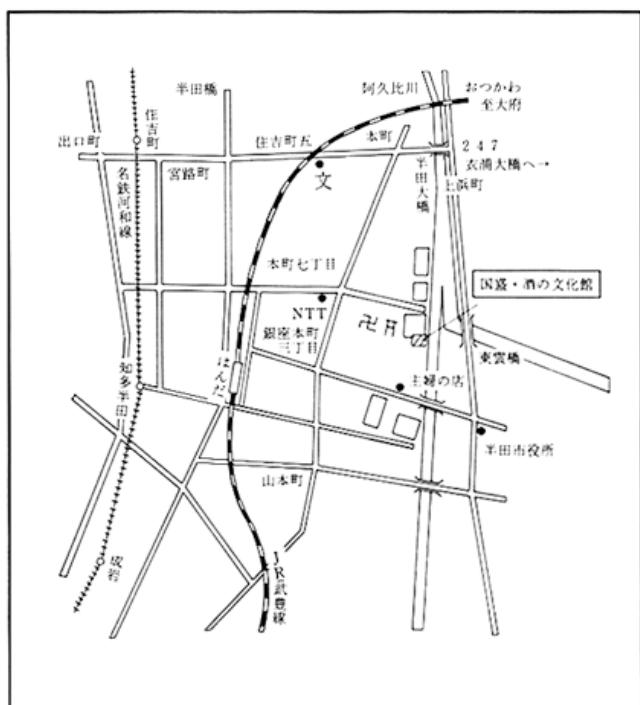
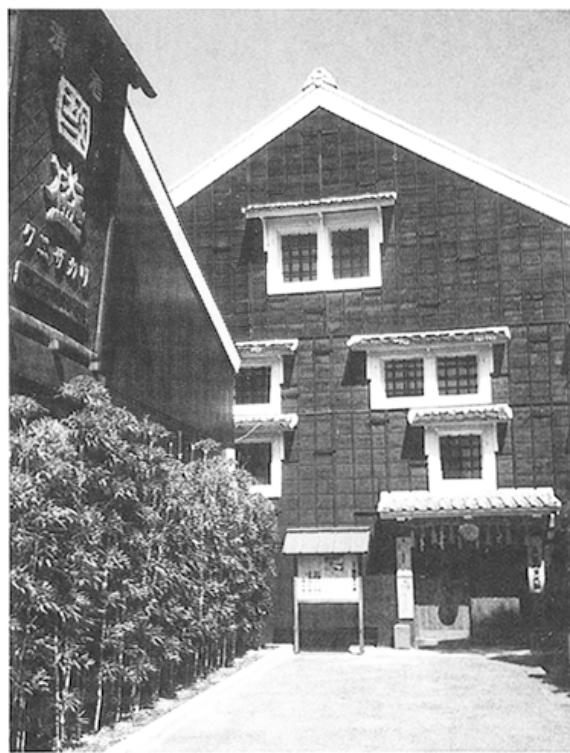
開館

10:00~16:00  
休館日 毎週木曜日（木曜日が祝日の場合はその翌日）  
年末年始（12/28~1/5） 盆の前後等

入館料 無料 団体は予約申込みが必要です。

特色

約2世紀にわたり酒造りをしてきた土蔵造りの酒蔵の2階に、伝統の酒造りにつかわれた道具類、資料が展示され、昔の酒造りは和紙人形でつくられたミニチュア・パノラマが、新工場での酒造りは新旧対比の形で映面が解説してくれます。更に最近多様化してきた日本酒の商品説明を聞きながら色々なタイプのお酒が試飲できるのも蔵元ならではの博物館です。尚冬期には新醸造工場の見学もご予約により出来ます。



## 豊橋市自然史博物館 TOYOHFSHI MUSEUM OF NATURAL HISTORY

所在地 〒441-31 豊橋市大岩町字大穴1-238  
電話(0532)41-4747  
交 通 J R二川駅より、徒歩20分、タクシー5分 J

R 豊橋駅より、豊鉄バス（動物園行）約25分  
「動物園前」下車、徒歩3分

**沿革** 豊橋市が市制施行80周年の記念事業の一環として建設しました。昭和58年、アメリカ合衆国デンバー自然史博物館と友好提携し、それに伴って購入した恐竜アナトサウルス化石をメイン展示物として、昭和63年5月1日、生物の進化と自然のしくみ、および郷土の自然史をテーマに開館しました。

**施設** 敷地18,400m<sup>2</sup>  
鉄筋コンクリート平屋建（一部2階建）  
延面積3,587m<sup>2</sup>

展示室	6室	2,584m <sup>2</sup>
収蔵庫	2室	125m <sup>2</sup>
研究室	1室	53m <sup>2</sup>
学習室	1室	53m <sup>2</sup>
製作室	1室	53m <sup>2</sup>
講堂	1室	180m <sup>2</sup>
その他		539m <sup>2</sup>

**開館** 9:00~16:30（入館は16:00まで）

休館日 月曜日（月曜日が祝日または振替休日のときはその翌日）

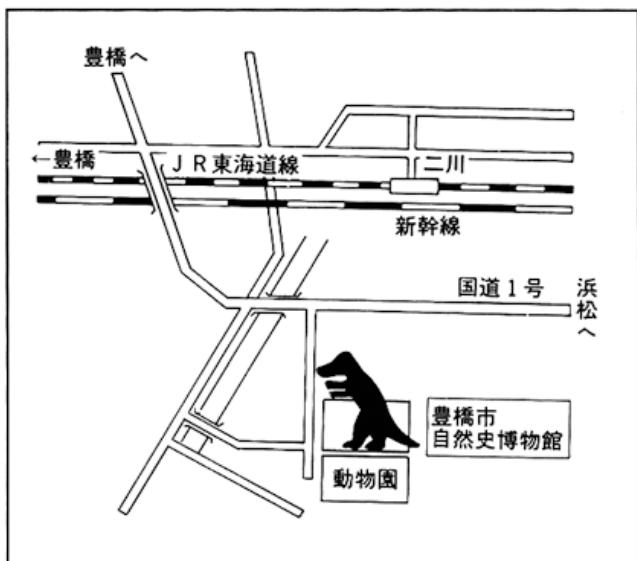
年末年始（12月29日~1月1日）

**入館料** 個人大人300円、個人小中学生100円  
団体大人240円、団体小中学生 80円



**特色**

- 建物は、全体の形が左右対称の扇形で、各展示室は今後の資料の充実に伴い増設可能な設計になっています。
- 中生代白亜紀の草食恐竜、アナトサウルスの実物化石を中心に、各地質時代の生物と環境を示すジオラマや実物化石等を時代の流れにそって系統的に展示しています。
- 教育普及活動として、自然史講座、学習教室、特別企画展等を開催しています。



## 犬山市文化史料館

所在地 犬山市大字犬山字北古券76番地  
電話 (0568) 62-4802

交 通 名鉄犬山駅又は犬山遊園駅下車  
徒歩……15分 車……3分

沿革 この文化史料館の敷地は、犬山城が現在地に移築されてから幕末までは、犬山城の大手門の中で、家老屋敷のあった所である。数年前まで検察庁、家庭裁判所があった所である。旧城内であり、国宝犬山城に近いということもあって、城廓に似合った外観に設計建築をした。昭和60年度着工、昭和62年2月14日竣工開館。

施 設 敷地2411m<sup>2</sup>  
鉄筋コンクリート2階建、延面積941m<sup>2</sup>  
展示室…369m<sup>2</sup> 収蔵庫…243m<sup>2</sup>  
その他…329m<sup>2</sup>

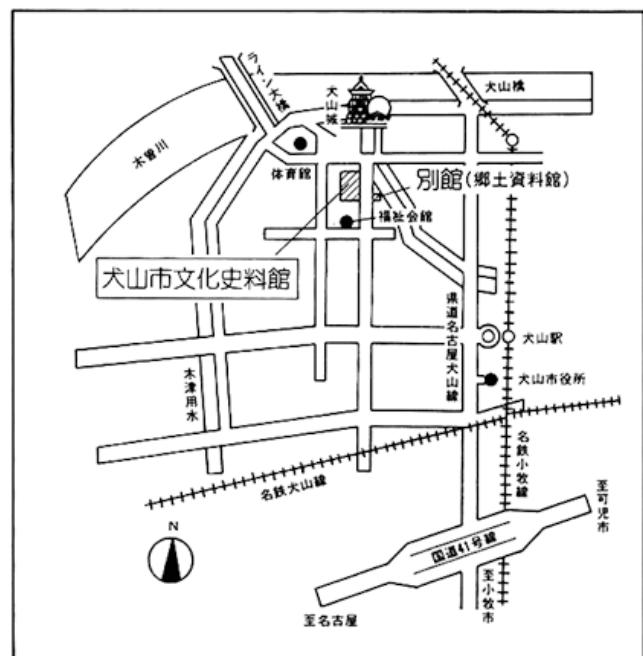


開 館 9:00~17:00 (入館は16:30)  
休館日・月曜日 (祝日の時はその翌日)  
・12月28日から1月3日まで

入館料 個人100円 (中学生以下は除く)  
団体 80円 (30人以上)

特別展の時は特別観覧料を定む

特 色 山車展示ホール 中央に犬山祭りの山車を2台陳列してある。1台には常時提灯を下げ、スイッチを押すと数秒点灯する。犬山には愛知県の有形民俗文化財に指定された山車が13台ある。然も全部の山車に、からくりがついている。ビデオ説明ボックス、パネル、写真、からくり模型等多数展示してある。  
常設展示室 犬山市の歴史、犬山のなりたち、犬山の観光・産業等を紹介している。  
特別展示室 春秋の年2回企画展示し、平常時は犬山祭りに関連したものを展示。



(以下次号)

### 「愛知の博物館」No.48

発 行 日 平成元年7月31日  
編集・発行 愛知県博物館協会  
〒489 愛知県瀬戸市南山口町234番地  
愛知県陶磁資料館内  
<0561> 84-7474